



下関海事事務所 船舶検査官
令和4年度 採用（船舶系技術職員）

【略 歴】

令和4年4月 下関海事事務所

※所属、職名、内容などは令和5年6月現在のものです。

現在の仕事内容

- ・船舶検査や船舶・搭載品に係る図面審査など
- ・船舶の測度に係る業務の一部

Q. 船舶系技術職員を志望した理由は？

学生時代に船舶・水産を専門に学んでおり、船舶に関係している陸上職を就職先として探しておりました。また、多くの大学の先輩方がこの職種でご活躍されており、様々なお話しを聞く機会があったため、船舶系技術職員をより身近に感じておりました。その中で、業務を通して様々な船種の船舶に関わることができる点、海上運送の欠かせない日本において、その安全や秩序を守る一助になれる点に魅力を感じ、船舶系技術職員を志望するようになりました。

Q. 仕事のやりがいは？

新造船では、図面審査から始まり、製造検査、完成検査、竣工まで立ち会うことになります。大きな船舶の生まれる前から旅立つまで見届けられることができるということは、かなり貴重な経験なのではないかなと思います。造船所とともに苦勞して送り出した船舶が実際に活躍しているところを見ると大変感動します。

修繕船では、船齢の若いものから私よりも年上のようなものまで様々です。どの船もきちんと手入れされ、大切に使用されているものがほとんどです。それらの船が次の定期的検査まで無事に航行できるように、検査を通して関わることができる点にもやりがいを感じております。

Q. 女性にとって、運輸局は働きやすい職場ですか？

船舶系技術職員では、女性は多くありません。ですが、働きにくさを感じたことは特にありません。体力を必要とする職種ではありますが、性別でのデメリットはないように感じております。また、休暇も取りやすいので、かなり働きやすい環境を整えていただいているように感じます。出産や育児などに関する様々な制度が用意しており、それらを活用されている先輩方も多くいらっしゃるようです。

Q. 1日の仕事の流れ

8:30 出勤、用意をして現場に出発

9:00 造船所到着、船舶検査を実施

船体外板やタンクの内検、属具・備品、機関の解放検査、機器の据付、効力検査など検査内容は日によって異なります。

12:00 昼休み

検査終了時刻によっては、そのまま昼食を食べて帰る場合もあります。

検査が昼をまたぐ場合もありますが、その場合は検査終了後に1時間休憩を頂いております。

13:00 事務作業、打合せ対応、船舶検査や搭載品の検査業務など

検査の申請が多い場合は午前中に引き続き、検査に出ます。

検査がない場合は、午前中の検査の事務処理や図面審査、造船所や船主との打合せ対応などを行っています。また、翌日以降の検査の準備や雑務なども行っています。

17:15 退庁

Q. 就職活動中の皆さんへのメッセージ

まずは、自分にとって何が譲れない条件なのか見極めることに努めてください。そして、どのようなことが得意で、どのようなことなら今後も続けられるのか具体的にイメージを持てるようになると自ずと理想の就職先が絞られてくるのではないかなと思います。また、多くの情報を収集することも大切だと思います。今はオンライン上でも知ることができる情報が多いですが、実際に働いていらっしゃる人と接することができる説明会やOB訪問などで空気感をつかむことも重要だと思います。

船舶系技術職員には船舶以外の分野から入られる方も多くいらっしゃいます。船舶は、大きく分けて、船体・機関・電気部門に分けられます。船舶を通じて様々な知識を幅広く学ぶことができる事もこの職種の大きな特徴の一つなのではないかと思います。入局後も研修などが充実しており、知識の習得をサポートしてくれます。是非候補の一つとしてご一考いただけますと幸いです。